

高橋百合子先生のご退職に寄せて

宮 崎 緑 也  
五反田 克 也  
太 田 昌 志



高橋百合子 先生

## 高橋百合子先生のご退職に寄せて

宮 崎 緑

我が国際教養学部の使命は、学生達を世界に通用する真のグローバル人材に育て上げることである。そのために、これまでの高等教育には無かったような斬新な教育プログラムを開拓し、幾多の挑戦をしてきた。

まず、新入生を入学式のその日に式場から直行で海外に連れていき、大学生活の初日を日本の外から始めさせる。海外フレッシュマンキャンプである。提携先の大学とコラボレーションを行い、あちらの学生との混成チームによるフィールドワークやプレゼンテーションでいきなり国境や文化の壁を超えさせる。カルチャーショックを受けた学生たちのモチベーションは嫌でも上がる。2年次には必修の短期留学があり、クォーター制の下、カリキュラムは日本を知り、アジアを知り、世界に羽ばたくように螺旋的に構築している。

こうした哲学で学生と向き合う時、問われるのは我々教員の姿勢であり、彼らの具体的なモデルになってやれるかどうか、ではないだろうか。

その意味で高橋百合子教授は、間違いなく、学生たちが目指すべきゴールを具現化した最適なモデルの一人である。

外交官一家に生まれ、世界中で生活され、人生の舞台が文字通り「地球」だった。異文化を理解し、消化し、どんな環境にも自然に溶け込まれる。本学国際センター長として海外大学との提携拡大を課題に掲げると、アポ無しで相手大学に飛び込み、担当者と心を通わせ、最速でMOUを締結する。その数、5年間で世界19の国と地域の41大学に上った。

学外では先の天皇皇后両陛下の英語の通訳として皇室外交に同行し、御製の御歌を日本語のニュアンスそのままに翻訳するセンスを光らせた。

その高橋百合子先生が直接、教えるのである。学生達はなんと幸せなことか。TOEICでほとんど点が取れなかった学生が、GPAC (Global Partnership of Asian Colleges) で北京大学やソウル大学、ベトナム国家大学といったアジア各国の学生達と英語でディスカッションできるまでに育つ。発音や文法より如何に言いたいことが通じるかが大切だとして、EnglishではなくGlolishを提唱された。

定年退職という区切りはあったものの、その後も顧問として学部教育に注力し続けてくださっている。政策情報学部時代からの仲間として、この区切りに記念論文集をまとめられることを大きな誇りと思っている。

## 高橋百合子先生のご退職に寄せて

五反田 克 也

高橋先生とは政策情報学部時代から国際教養学部の立ち上げ、完成年度までのカリキュラム運営とさまざまな場面で大変お世話になりました。特に、私は政策情報学部ではカリキュラム関連委員会の委員長として、国際教養学では教務委員長として英語科目の取りまとめを高橋先生にお願いし、いろいろと無理難題に対処していただきました。

国際教養学部を立ち上げるにあたり、我々が目指したのは全員で同じ大学へ留学するのではなく、少人数で複数の国の大学へ留学するというものでした。そのために、高橋先生の世界中に張り巡らされたネットワークを使ってアメリカのカンザスとハワイ、オーストラリア、スコットランド、インドの留学先が確保していただきました。その後、カナダ、ニュージーランド、マレーシアと増やしていただきました。この時に驚かされたのは、先生の行動力と決断力です。少しでも時間があると、アメリカやヨーロッパ、南半球へと出かけ、短期間で留学受け入れに関して交渉をまとめてこられる姿に、私も見習わなければと思ったものです。

英語教育については、文法中心で教科書を読むだけのような授業ではなく、学生がより楽しく英語を学ぶために、会話中心の授業を運営されてきました。特に、国際教養学部ではネイティブスピーカーのみによる英語の授業は学生からも好評を得ており、学生の実力の徐々に向上してきています。

授業以外では、高橋先生は学生との交流を大切にされてきたと思います。国際教養学部の1年生歓迎BBQ大会には、必ず参加され学生に美味しい手料理を振る舞ってもらいました。埼玉県嵐山溪谷や千葉県印旛沼など遠方で実施するにもかかわらず参加いただいたことは学生にもいい思い出となっているでしょう。また、ハロウィンパーティーには積極的に仮装して参加されていた姿も印象深いです。

プライベートでも、高橋先生は私の妻の英語の先生であり、私は教員同士としての付き合いと、妻の先生としての付き合いの両方の面からお世話になっている。最近では、娘のことを気にかけていただき、相談にのってもらうこともあります。これからも公私にわたってご指導いただきたく、ご健康にすごされることを願っております。

## 高橋百合子先生のご退職に寄せて

太田昌志

高橋百合子先生は2019年3月千葉商科大学国際教養学部をご退職されました。在職中は本学部における語学教育に専念するばかりでなく、本学部の必修科目である海外短期研修の提携先の開拓、新入生の恒例行事となっているフレッシュマンキャンプにおける様々なセッティングと、まさに世界を飛び回り、学部の教育の要としてご活躍されました。また、全学としても、国際センター長をお勤めになり、千葉商科大学の国際化に大変なご貢献をなさいました。

高橋先生は2008年に本学政策情報学部教授として就任されました。就任された当初、学内の様々な業務をご一緒する機会を多く頂戴いたしました。高校訪問やオープンキャンパスなどの校務をご一緒したことが懐かしく思い起こされます。とりわけ2009年には政策情報学部の1年生の必修科目である研究基礎の授業でご一緒させていただき、私が学生に厳しい態度で臨んだあとに優しくフォローをしてくださり、二人三脚で初年次教育に取り組んだことが昨日のこのように思い起こされます。

そして、2010年2月に本学と提携のある上海立信會計金融学院において日中共同コースの集中講義にご一緒させていただいたことは、私にとって最も楽しい思い出となっております。その時私は初めての海外渡航で慣れないことも多く、非常に不安でしたが、高橋先生は上海の街を自信に満ちた姿勢で堂々と闊歩し、真の国際人の姿を体現されておられました。私の娘のお土産を買うところまでご一緒させていただき、毎晩美味しい上海の中華料理を食べ、驚くような経験談をたくさん聴かせていただきました。「イラン＝イラク戦争の時は大変だったわ、爆弾が落ちてきたら危ないから窓に近づかなかったのよ」と奥ゆかしい口調で世界の激動の事件を語られるので、とても驚いた記憶が呼び起こされます。

国際教養学部を立ち上げる準備会合ではいつもにこやかに学部の設計、教育理念などの議論に加わっていらっしゃいました。高橋先生が語学教育において提言されていたらっしゃいました、「英語を呼び覚ます」というお考えは、私たち日本人は義務教育の途上から英語に触れて多くの単語、連語、表現方法を知識として持っているが、それを呼び覚ます力が不足しているというもので、難しい構造の日本語をそのまま英語にするのではなく、英語を用いてできる表現で相手に意を伝えるという非常に合理的かつ実践的な教育方法を展開されました。私も語学を学ぶ者の一人としてこの考え方を実践したいと思っております。高橋先生の国際人としての心構え、類稀な行動力を間近で学ぶことができたことをただただ感謝申し上げるばかりです。

高橋先生は今現在も本学の国際分野を支える顧問として、日々本学の国際化に貢献されています。学部の会合ではお目にかかることはできませんが、大学内でご一緒できることは大変嬉しくまた心強いです。高橋先生におかれましては、いつまでもご健勝に恵まれ、公私共にご活躍されますことを執筆者一同、心より祈念申し上げまして、本論文集を献呈させていただきたいと存じます。

## 高橋先生の略歴および業績

### 写真

### 学歴

- 1968年 聖心女子大学 文学部英文学科卒業  
1992年 米国ハワイ大学大学院 言語学科 修了 文学修士

### 職歴

- 1992年～1995年 東京水産大学（現東京海洋大学） 英語クラス 非常勤講師  
1992年～1995年 聖心女子大学 英語科 非常勤講師  
1998年～1999年 東京水産大学（現東京海洋大学） 英語クラス 非常勤講師  
1998年～1999年 聖心女子大学 英文科 非常勤講師  
2001年～2007年 東京海洋大学 英語クラス 非常勤講師  
2001年～2007年 聖心女子大学 英文科 非常勤講師  
2008年～2015年 千葉商科大学 政策情報学部 教授  
2010年～2019年 千葉商科大学大学院 会計ファイナンス研究科 客員教授  
2010年～2019年 千葉商科大学 国際センター長  
2015年～2019年 千葉商科大学 国際教養学部 教授  
2019年 千葉商科大学 基盤教育機構 非常勤講師  
2019年 千葉商科大学 国際教養学部 非常勤講師  
2019年 千葉商科大学 国際担当顧問

### 学会および社会における活動等

- 1992年～現在 NHK グローバルメディアサービス国際研修室主任講師として通訳者、翻訳者の養成に当たる  
1998年 日本英語交流連盟 English Speaking Union of Japan 主催 大学対抗英語ディベート大会において毎年審査委員をつとめる  
2000年 オーストラリア Southern Cross University—Lismore Campus にて講演 “Cross-Cultural Communication”  
2002年 アルク主催・講演シリーズ第1回「眠った英語を呼び覚ます」～確実に英文を覚える方法～  
2003年 アルク主催・講演シリーズ第2回「眠った英語を呼び覚ます」～シャドーイング～  
2003年 アルク主催・講演シリーズ第3回「眠った英語を呼び覚ます」～耳から口へ～  
2004年 アルク主催・講演シリーズ 第4回「眠った英語を呼び覚ます」～インプットからアウトプットへ～  
2004年 通訳養成学校インタースクール東京校移転記念特別講演会「今話題の英語学習方法を学ぶ～通訳訓練法から生まれた新しいメソッド DLS とは～」

- 2005年 アルクのサイト SPACEALC 英語力アップマガジン紙上インタビュー  
及び DLS 実践
- 2005年 English Speaking Union of Japan・English Club 主催 Dynamic Listening  
and Speaking Method
- 2005年 東京外国語大学・特化コース推進室主催講演会「眠った英語を呼び覚  
ます」～DLS 英語学習法のすすめ～
- 2006年 名古屋 YMCA 主催・講演シリーズ 第1回「通訳訓練が生み出した  
DLS 英語学習法セミナー」(入門編)
- 2006年 名古屋 YMCA 主催・講演シリーズ 第2回「通訳訓練が生み出した  
DLS 英語学習法セミナー」(応用編)
- 2006年 東京外国語大学・特化コース主催講演会「眠った英語を呼び覚ます」  
～DLS 英語学習法のすすめ～

### 著書

- 2016年 英語スピーキング練習法 A-LiSM 朝日出版社
- 2016年 News Made Easy はじめての時事英語演習 金星堂
- 2007年 改定新版通訳教本『英語通訳への道』日本通訳協会編 (大修館)
- 2004年 『眠った英語を呼び覚ます～DLS 英語学習法のすすめ～』はまの出版
- 1997年 “Dual Career Impediments at the OECD.” OECD Report. Paris:  
OECD (Organization for Economic Cooperation and Development),  
1997

### 翻訳著書

- 2009年 Living Japan: Essays on Everyday Life in Contemporary Japan Ed.  
Harumi Kimura 共訳 Global Oriental.
- 2002年 『70年代アフガン：天上の足音』佐藤朝康脚本 英訳 デジタルコミュ  
ニケーションズ
- 2001年 『森の妖精ティタの旅』田中章義著 英訳 共著 作品社

### 学術論文

- 2005年 “Using Diagram Analysis to Promote Analytical Skills.” The  
Proceedings of JALT 2004: Language Learning for Life. Tokyo: JALT  
(Japan Association for Language Teaching), 2005.
- 1992年 “Contrastive Rhetoric: Japanese and English.” 米国ハワイ大学大学院  
言語学科
- 1968年 “A Study of Family Relationships in Three Short Stories.” 聖心女子  
大学文学部英文学科